



一月六日に消防デー

火災豫防の大宣傳

縣下一齋に行はれる當日

平署管下に於ける大運動

平署管下二十一ヶ町村の消防活動寫真を惜入れ管内各防組頭會は既報の如く十八日に無料觀覽をなす筈である。正午同署會議室に開演する。殉職組員の慰靈建碑並に消防デーに就て

協議を遂げた其結果

來る一月六日を期して火災豫防の大運動を行ふ消防デーには私設消防組並に火防組合を併せる約三千の組員が受持警察官吏と共に各戸檢分の注意

警告を

與へ左記の實行に請書を發し管内三十六ヶ所の各小學校では當日兒童に對する火防の訓話から趣旨宣傳の旗行列並にビラの撒布に相次いで乗合自

動車臺

のボスター映付宣傳とメガホン隊の活動その他會てない大運動を試みる筈で之れが爲め從來一月四日に行はれる平消防組の出初式當日には

繰延べ

ることになつたが更に防火思想の普及徹底を期すべく同月八日から向ふ一週間本消防協會

日曜大祭日	一月五日
一月六日	消防デー
一月七日	正月三ヶ日
一月八日	正月三ヶ日
一月九日	正月三ヶ日
一月十日	正月三ヶ日
一月十一日	正月三ヶ日
一月十二日	正月三ヶ日
一月十三日	正月三ヶ日
一月十四日	正月三ヶ日
一月十五日	正月三ヶ日
一月十六日	正月三ヶ日
一月十七日	正月三ヶ日
一月十八日	正月三ヶ日
一月十九日	正月三ヶ日
一月二十日	正月三ヶ日
一月二十一日	正月三ヶ日
一月二十二日	正月三ヶ日
一月二十三日	正月三ヶ日
一月二十四日	正月三ヶ日
一月二十五日	正月三ヶ日
一月二十六日	正月三ヶ日
一月二十七日	正月三ヶ日
一月二十八日	正月三ヶ日
一月二十九日	正月三ヶ日
一月三十日	正月三ヶ日

せは密柑やかに舌をうる

密柑かとわれつふやきて先づおもふ、はても密柑の食える頃かと

1930年

行進曲 (一)

一月十一日、金輪解禁實行された、大正六年九月十二日寺内閣の勝田蔵相の手によつて金輸出が禁止されたのだがその後大正八年原内閣の時金輸出解禁が山本洋雄氏によつて企てられて成らず、大正十二年加藤友内閣の時市來大藏大臣によつて企てられて成らず、加藤高内閣の濱口藏相、若槻内閣の片岡藏相によつて成らず、禁止されてから足かけ十四年目に濱口内閣の下に井上藏相の手によつて解禁されたのである。解禁されたのは、十四年も経たぬ陰曆の梅雨の空がからりと晴れて豊作を歌ふ蟬の音が聞かせる様な気分だつたが一年過ぎても暗雲低迷骨を抉る様な不景氣は益々深刻である。一月廿一日午後四時四十分第五十七議會が解散された、この日午後一時半首屆に地主権を唱ひた詰集端々外相蔵相の施行演説に次

南社短歌

三ツ二ツツ

木枯近古史談學べる頃を憶ひ出でぬ社務所に今宵風はげしからん

秋深し木枯吹きて停車場の深夜に客の語聲かな

木枯の荒めるからに寒々と叫ぶ峯の上を夕雲いそぐ

「密柑」

山里の段々畑のこのもかも密柑うれ居り春日にして

柔かき密柑をむきて口に

い犬養總裁は海軍問題綱紀草正失業問題を提げて首相に肉搏し、ライオンと狼が四ツに組んだ、解散後濱口首相が犬養總裁を批評して、七十六歳の老人とは思へぬ程の元氣には敬服したが、研究の結果による質問の標ではなかつたと成る程日に月に組織化される現代では演壇に立つのは犬養總裁よりも山本氏や三土氏の方が適任であつたかも知れぬ、然し當日の犬養總裁の演説は流石に堂に入つたもので濱口首相は一本参つた安部磯雄氏は批評して

豊間村の海濱地拂下

地元希望は承認の模様

石城郡豊間村では同村内に於ける海濱地官有二十二町歩の中大字薄磯の七反歩及び沼内の五町歩、豊田五町歩の合計十一町歩の特賣に就て當局に申請中であつたが右に對して十九日同村助役及び各大字有志青年等が事務署に出頭の上希望承認方を陳情する所あつたが公益上の關係を除く前記の面積は希望通り公賣されることとなる模様である

披露宴

招待員八十 餘名の盛宴

平町の街頭に一偉觀を添えた柴田書店マルトモビル竣工披露宴は既報の如く十八日午後三時から同館三階の大ホールに町内有志八十餘名を招待して開かれたが催しの順序は餘興に中島湖州外一名の素人手品終つて四時から食堂に移りデザートコースに入るや館主柴田徳三氏及び同氏の義父吉田禮次郎氏の挨拶あり次へで來城郡内郷村の綴字河原田木實相馬屋方に投宿した午後九時頃宿屋の主人から一圓廿錢を借せと云はれて之を貸したところ翌朝になつて宿泊を拒絶されたのみか

大立廻り

小名濱町の魚商幸太郎

石城郡小名濱町の古湊五居任魚行商阿部幸太郎(三)は去十月廿七日午後四時頃魚代の貸借關係から同郡内郷村の綴字河原田四〇清水倉之助(五)と口論の末鋸を以て倉之助に飛か、より更に傍らにあつた根棒で毆打一週間の傷害を與へて平署の取調を受け嚴重なる説諭の上一時放逐された

毆打する

鮮人館屋の二難

平地方を得意にして朝鮮鮮屋松本新太郎朝鮮生れ沈民澤(三)は去る十三日夜石城郡内郷村の綴字河原田木實相馬屋方に投宿した午後九時頃宿屋の主人から一圓廿錢を借せと云はれて之を貸したところ翌朝になつて宿泊を拒絶されたのみか

小作料の二重請求

紛争が何處まで續くか 最後の結果が見もの

小名濱商港の實現による同郷地方の發展を豫測して同町字松の中を差挟む町内の海岸地から玉川村に亘る田畑は一昨年来頻繁なる異動を遂げ就中大口な

泉村阿部忠安から茨城縣久慈郡の稲田覺太郎氏に譲渡された數十町歩は原野を除いて數十名の小作に任せられるが兩氏共に表面の地主権利は

賣掛代から

大立廻り

前記一圓廿錢を返して呉れず其上月四日午後六時頃戸外に引出されて火鉢で毆打一週間の傷害を與へられたと云ふので平署に告訴し取調中

平町會は

來廿二日 提出案件は大體既報の通り

平町に於ける本年最終の町會が廿日過ぎになるであらうとは既報の如く來る廿二日午前十時の提案に於て案件は夏井川護岸改修並に傳染病院費の追加豫算及び北目胡摩澤(第十五區)行政區の分離實施と區長推薦外寄附採納並に特買申請を申してゐた平署事務所が當局に於て平町の所用に對して無代貸付する旨回牒があるので大體所記の件を附議されるもの、如くであるが例によつて一二の動議が出るであらうと見られてゐる

借りに上

毆打する

平地方を得意にして朝鮮鮮屋松本新太郎朝鮮生れ沈民澤(三)は去る十三日夜石城郡内郷村の綴字河原田木實相馬屋方に投宿した午後九時頃宿屋の主人から一圓廿錢を借せと云はれて之を貸したところ翌朝になつて宿泊を拒絶されたのみか

馬に上

此句は

此句は馬に上りしに切つて寄りかゝり行く馬上と讀まざらば波とは細かい波の寄りがらしが小さい川のほとりに寄りかゝり行くので切を吹く川は風と反対の方向に流れて居るのであるが風の勢ひに川上の方へ吹もどす馬上にこがらしを避けなされてさうら波を立て、居るどうも強い風であると云つた句で風強さと周囲の寒むしとした光景が現れて居ります

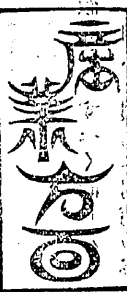
俳句

白きを 見れば 満莊壽主人

木枯しに咲いて見せたるハツ手かな 林陰

見れば

ハツ手と云ふ木は羽團扇の様な葉を持つた木で十一月



産米の改良
良に就て (十)
玄米包装の巻

徳産の製作は極めて容易にして何人にも出来る先づ老人や婦女子の仕事に最も適する初めの者でも一二枚造れば上手になる次に俵造は成る可く夜業が若くは雨降の日野の出来なない様な時に或はお正月休みの仕などに俵造工をする機会などに年中使用すべき俵造を製作し置き何時でも十俵や二十俵の玄米を包装するに差支なき様に用意して置くべきものである斯くすれば俵が能く乾燥して古葉を用へて通りたる俵と同様になり米を入れても變質する虞れがない又いざ米拵を為しても其容器の準備がなければ誠に難儀を用へて製作を始むばならず少くも忙の期節などに相違すれば其運びに至り兼ね遂に古吹や古南京袋などに入れざるを得ない様になる故に農家は作物の入物の各其物に依り相當の容器も準備し置く事も農業の一義務である故に左様心得て貰ひたい況んや米は農作物中の大宗であり貴重品であるがたの其包装を吟味する必要を認る殊に稻を作りて玄米を賣らんとする農家にありては最も完全なる包装を要する故に

か作みでは其間に合ひ兼ね場合が多いものである故常に前述の如き準備を要するものである

冬物入荷 山澤荷

伊関呉服店

ガリリン モビール油 日本石油 株式会社
特約販賣 油問屋 関内商店
支店 郡山市 電話三三八
支店 茨城県 關本 電話四三三
出張所 平町四丁目 郵便局前

外科、小兒科 平町、電話五二三
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科 高久病院
レントゲン科 院長 醫學士 高久忠

サロン 平町 電話三五三
いり生ビールがごいまます
キレイな座席で氣さかしく
フランス料理の献立
おいしい献立

◎貸餅は平製菓會社へ
例年の通りお正月の貸餅御供をお取扱へ致します
本年は不況の折柄でありますから特に壹升金五錢にて御注文を御引受け「量目は正確」市内無料配達いたします
何卒多少に不拘御用命は
電話三六〇番へ
平町字小太郎町
平製菓株式會社

玉屋洋品店
平町田町通電話三五六番

アゲイン
幾多の治癒劑中超然として偉効靈能を有するものは獨り本劑のみ
肺病、肋膜炎、肺炎、カタル等
定價(二圓、四圓、六圓)
平町五丁目
特約店 山野邊藥局

朝日 煙突は 朝日煙突
石綿セメント製
絶対にはばかぬ!!!
経済的で 災災の心配がない
金屋商店

ふゆの通學服 断然特賣の超尖端
小學生用長ズボン付
特製.....95錢ヨリ
極上品.....140錢ヨリ
中學生用
特製.....170錢ヨリ
極上品.....250錢ヨリ
買い良き店 5丁目
モリタヤ洋品店
電話 352番

味噌醬油 正宗 山崎會社
鐘詰鯉節
御進物には 商品切手
電話 醸造部 二七番 營業部 一〇番

七五三祝と 御暮歲御贈答品
子供服 オーパー
マン ト
帽子 下子
沓 下
毛糸製品
子供靴
箱 追
等
毛シヤツ
メリヤス
ワイシヤツ
ネクタイ
箱入タオル
化粧石鹸
半打三十錢
カク石鹸
三ケ
入三十錢
ヤルツ
電話目丁四町平

ライト 寫眞館
平町搦槌小路
電話 五三五番